

---

# **とある転生者の崩壊道**

Sankusu

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

とある転生者の崩壊道

### 【Zコード】

N7497Z

### 【作者名】

Sankusu

### 【あらすじ】

気がつくと真っ白な空間、そして神と名乗る奇妙な人間？？？それが転生ってやつか。とあるシリーズに転生した一人の少年、楠木和真。彼が関わっていくことで少しずつ物語が変わっていく。

渦巻く陰謀、落ちる涙。果たして、和真は自分の大切なものを守れるのか！・・・といったことはなく、だらけた生活を書いていく予定です。ちなみに主人公チートです。これが処女作なので、暖かく見守っていただけるとうれしいです。アドバイスなどをくれたらもっとうれしいです。

## 転生ー? (前書き)

初めてで、拙文ですがどうぞ。

## 転生ー?

田が覚めると、真っ白な空間だった。

「……どうだよ此処は?」 そう思ってこういって、

「此処は天界みたいなところじゃ。」

「うわーーー?」

後ろからこきなり声をかけられたので、思わず身構えてしまった。

「なんじゃ、意外とびびりなのか?」

「……誰だよあんた。」

「わっちは世間で言つて神といひやつてやつじや。」

「……神?それにわっち?」

「そつちは氣にするな。ただのくせじや。それより、お主今  
の状況が解るか?」

「まつたく何も解らん。」

「やせりか……。まあ簡単に言つてお主は死んだのじや。」

「・・・は？」

「いきなり言われても理解できんか。まあなんで死んだのか」と言つと、

「おじさん」

「・・もつと訳が解らん。死んだことにしたつて何だよ。」

「お主此処に来る直前、何をしていたか覚えているかの？」

「確かに昼飯を食つていたはずだが、それが？」

「うむ。その昼飯に食つていたパンを誤つてのどに詰まらひたことにじりしまつての。

それでも主は死んで、今に至る。」

「・・パンをのどに詰まらせるつてあんま聞いたことねえぞ。  
まつ、とりあえず俺は死んだわけね。」

「なんかあつせつしてゐるの。まあいい。とつあえず死なせてしまつたお詫びとして、違ひ世界に転生させてやるわー。」

「何でそんなにテンション高いんだよ。。。

「わねわね、うるさいんだい……」

それでも、まさか転生が俺におこるとはない。まあ嘆いてもしゃあないか。

となると、原作知識をある程度知っているほうが何かと便利だよな。

「それなら、とあるシリーズの世界で。」

「ほうほつ、とあるシリーズか！いいのぉ！  
ちなみにわっちは神裂ねーちゃんが好きじゅーーー。」

「んな」と誰も聞いてやいねーよ。」

「それで、どんな能力が欲しいかの？」

「は？ 能力？」

「あんな世界に行くんじゃ。あつたほつが安心じゅる。」

「言われてみればそつか。となるとどんな能力がいいんだ？」

うーん、原作はあまり壊したくないからな。

表向きは普通の能力であとはチートにしてもらうか。

「なら、田井黒子ぐらいの瞬間移動で。それを普段の能力としてふるまう。」

あとは、ナルトの永遠の万華鏡写輪眼、もちろん普通の写輪眼もな。

それと忍術全般、学園都市に存在するすべての能力、あとはワンピースの霸気全部かな。」

「・・・・意外と欲張りじゅの。」

はつー第一の人生なんだ。これぐらいあつてもいいだろー！

・・・・・自分でも少し多いなども思つてゐるが。

「まあ死なせてしまつたから、それぐらいならいいんじゃが

あとは、年齢と性別じゃがどうする?」

そうか、年齢とかがあつたか。年齢は上条さん達と関わるなら同じ年がいいか。

そつちの方が動きやすいだろう。性別は変えるつもりはない。

「なら、年齢は16歳、性別は男で。

「年齢は16、性別は男じゃな。よし、登録できたぞ！」

・・・登録つて何だよ。それはさておき、学園都市か。  
ヤベえ、なんかテンションがあがつてきた！

「それじゃあ、学園都市に飛ばすぞ、よいな?」

こうして、一人の転生者が物語りに介入していく。

「ちなみにわざわざ出でて来るのかで、どうかでござる」。

「何でだよ！！」

大丈夫か、この先の俺の人生。

## 転生!-?（後書き）

タイトルのあればブレイクロードと読みます。ちなみに、和真の能力とはあまり関係ありません。気が変わつたら関係してくるかもしれません。

## これらの統括理事長（前書き）

いつも、シャンクスです。相変わらずの拙文ですが、よかつたらどうぞ。

## こわなりの統括理事長

「ここは、230万人の人が住む学園都市。その学園都市の第7学区に和真はいた

（とりあえず学園都市に来たんだ、散歩でもすつかな。）

やつ思つて歩き出やつとしたら、ポケットに何かが入つてゐるのに気がついた。

「何だこれ？」

ポケットを見ると、入っていたのは小さなメモ用紙だった。見ると、神からの伝言だった。

t o 和真

「これを見ていろ」ということは、無事転生できたみたいじゃの。色々あると思うが、がんばって生きていくんだじゃな。それとお主の力じゃが、  
言われたやつのほかにもうひとつオリジナルの能力をつけておいた。

自分で確かめておけ。

それからこの世界でのお主の家はないからがんばって見つけるんじやな、ほつほつほつ！

「・・・・あの野郎、今度会つたらじばいてやる。それと、オリジナル能力だと？」

どんな能力だ？あとで確かめてみるか。それより・・・

「家探しとか、人生初だぞ・・・。」

新しい世界で初めてやることが家探しとか・・・テンション  
だだ下がりだよ。

「つーか、どうやって探しやいいんだよ。

うーん、てつとり早いのは統括理事長に会つことだよな。」

でも大丈夫か？いきなり会つて。最悪殺されるかもしけん。  
それだけは避けたい。

この世界では早死にするつもりはないぞ。  
・・・もとの世界でも死ぬつもりはなかつたけど。

「・・・まあ、殺されることはないだろ？  
よしーなら思い立つたら吉田つてやつだな。早速いつてみる

か。  
」

第7学区のある惣もドアもないビルの中、アレイスター・クロウリーは、田の前に立っているモニターを見ていた。そこには、ビルの屋上に突如姿を現した一人の少年が映っていた。

「・・・・・」

すると、その少年が今度は自分の田の前に姿を現した。

「ハロハロー！」

「・・・誰だ。」

「おいおい、人のことを聞く前にまず自分の紹介だろ。なあ、魔術師アレイスター・クロウリーさん？」

「・・・すでに私のことを知っている者に自己紹介をしてなんになる。」

「ははっ！ それもそつだな。」

「で、君は誰だ」

「俺は楠木和真。出身地、その他もうものは答えられない。」

「楠木和真・・・それで、目的は何だ。」

「目的か・・・まあまずは家だな。」

「家・・・？」

「ああ。実は学園都市に今さつき来たばかりでな。  
しばらくここにいるつもりだから住むところが欲しい、でき  
れば第7学区内で。」

「そうか。それで本当の目的は？」

「今言つたこと無視かよ・・・。」

「この映像に映つているのは君だろ？」

映像だけでも君が普通じゃないのがわかる。

そんな人間に家をやるなんておかしいだろ？」

「今度は変人扱いかよ……まあ家が真の目的ではねえけど。」

「なら何だ。」

「まずはここに住むこと。それからのことは何も考えていない。  
……どうしたらいい？」

「私に聞くな。……ふう、まあいいだろ。」

だが、君がここに住んで私になんのメリットがある？

「ああ……なんだろ？ な。とりあえずは暗部の仕事を引き受けたりしよう。」

「それは君にデメリットしかないんじゃないのか？」

「確かに。俺も死ぬつもりはない。だが、何もないのもつまらない。」

俺は刺激がある人生を楽しみたいからな。」

「なるほどな・・・まあいいだろ。」

それで、最初は家だつたかな・・・そうだな。

では、ここから南西に見えるあのマンションの20階から2

7階をやろう。

ちなみに各階の部屋数は10部屋だ。」

「・・・あんた馬鹿か?どこに一人で80部屋使う奴がいんだよ。」

「全部使わなくともいい。あそこは空き部屋が多くてな、処理に困っていた。」

「家賃は払わなくもかまわない。」

「・・・結局いらねえもんを押し付けられただけじゃねえかよ。・まあ、それだけいい家を貰えたからありがたいけどな。」

「次に暗部のことだが、こちらから君の携帯に連絡する。それ以外の時間は自由にしてもらっても構わない。」

「分かった。それと俺の学校とレベルは?」

「学校は海星学園、学園都市でも5本の指に入る学校だ。レベルは、表向きはレベル4の瞬間移動にしてもらつ。レベル5と公表して変な騒ぎでも起きたら面倒だからな。暗部では、「コードネーム「デビル」、つまり学園都市第零位として働いてもらつ。」

「（第零位？デビル？そんなもんあつたっけか？）分かった。

「（うう、今日はもう帰つていい。家の鍵はそこおいてある。）  
「ああ。サンキューな」 和真は瞬間移動を使って外に出た。

（・・・楠木和真か。面白い存在が出てきたな。）

そしてビルを出た和真は、あてがわれたマンションに向かつていた。

(ふう・・・死ぬかと思った。

何だあの威圧感、完璧に殺すつもりだったんじやねえか?  
まあ話がまとまってよかつた。・・・割りとガチでよかつた  
と思っている。

まあこれで最低限生きていけるようにはなった。

さて、これからどうやって原作に関わっていくかな。 )

## こわなりの統括理事長（後書き）

結局、タイトルのあれを能力にすることにしました。どういう能力にしようか悩んでいます。多分、次は人物設定なのでそこで発表したいと思います。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7497z/>

---

とある転生者の崩壊道

2011年12月25日18時50分発行